

栄養診療部

■ スタッフ

部長	兼児 敏浩 (医師)
副部長	矢野 裕 (医師)
副部長/栄養士長	和田 啓子 (管理栄養士)
管理栄養士	16名(常勤5名 非常勤11名)
併任 医師	1名
併任 看護師	1名
併任 薬剤師	1名

■ 特色

患者個々に沿った適切な栄養管理により、疾病の治療、回復、予防を図るための栄養管理(患者給食、栄養指導等)の様々な業務を行っています。

■ 栄養管理業務

1. 患者給食

患者給食は国によって定められた食事基準に基づいて実施しています。様々な疾病治療の一環であると共に、入院生活を支える楽しみとしての食事となるよう工夫しております。(年間のべ約48万食を提供)

一般的な食事として、朝食はご飯食かパン食の選択、昼夕食については一般食において肉または魚の定食パターン、麺セット、パンセット、寿司の5種類の選択メニューと、化学療法時の生食禁止対応の3種類があります。また、季節を感じる事ができ、患者さんの健康を願う『行事食』の提供を年中行事に合わせて提供しております。特別治療食は、各種疾患ガイドラインに沿って病態に応じた栄養量へ調整し、医師の指示に基づき提供しております。

「日本人の食事摂取基準(2020年版)」や各種治療ガイドライン等の変更に伴い、当院の『食事基準の手引き』を改定しています。多様な患者給食に対応するため、食種や採用している濃厚流動食の種類等も必要に応じて更新しています。

給食業務は委託しており、給食会社と協力し、安全で衛生的な美味しい食事を提供できるよう心掛けています。隔月1回、病院職員と給食会社職員にて患者給食業務定例会を開催しています。

また、入院患者さんを対象に食事アンケートを実施し、より良い病院食の提供を目指しています。

2. 栄養診療部運営委員会

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務職員等の委員にて隔月1回会議を行い、大学病院の栄養部門として業務の改善・改新に努めています。

3. 栄養指導

個人栄養指導

糖尿病、肝疾患、腎疾患、脂質異常症、肥満、高血圧、心疾患、消化管疾患、先天性代謝異常症、低栄養、癌化学療法、術前術後の栄養管理など、病態を考慮した食事療法を提案しています。入院では病院食に沿った栄養量と食事内容について、外来では個々の生活環境に合った食事療法の実践方法について、患者さんやご家族を支援しています。栄養指導時に体組成や握力の測定を行い、栄養状態の評価と指導のツールとして活用しています。また、2023年9月より外来化学療法室と連携し、「外来栄養食事指導料(外来化学療法での栄養管理)」の算定を開始しました。

集団栄養指導

2020年2月以降、感染対策のため中止していましたが、2022年10月より規模を縮小して再開しました。

医師、栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師等の協力により行っています。

- ・両親学級 (毎週水曜)
- ・減塩教室 (3回)
- ・糖尿病教室 (1回)
- ・睥がん教室 (4回)
- ・睥がんグルメディカル教室 (1回)

各教室では入院・外来患者さんとそのご家族を対象に、関係スタッフからの講義と質疑応答を行っております。減塩教室、グルメディカル教室では、院内のキッチンスタジオにて管理栄養士の調理実演も行っています。

4. チーム医療

病棟担当栄養士制

主担当・副担当の2名体制にて各病棟の栄養管理を行っています。必要に応じて担当病棟の入院診療計画書作成、特別な栄養管理を必要とする患者さんについての栄養管理計画書作成、内容や食形態の調整を行い、早期回復・退院に向けて他の医療スタッフと連携し取り組んでいます。

入院栄養管理体制、管理栄養士の病棟配置

2022年度の診療報酬改定にて「入院栄養管理体制加算」が新設され、2022年4月より7階北病棟に専従管理栄養士を配置しております。2023年は、6月より10階北、11階北病棟、10月より9階北、9階南病棟に専従管理栄養士を配置しました。医師、看護師らと連携し、入院栄養管理体制を整えております。

早期栄養介入管理

2022年4月より救命救急病床（8病床）対象に、専任管理栄養士が入院早期からの栄養介入管理を医師、看護師、薬剤師らと連携して行い、「早期栄養介入管理加算」の算定を開始しました。病床管理の運用が変更され、2023年10月からはICU病床（14病床）を対象に算定をしております。

栄養サポートチーム-Nutrition Support Team (NST)-

医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、臨床検査技師、事務職員等で活動しています。週1回のカンファレンスとラウンド、年数回のNST定例会を開催しています。NSTニュースを全職員にメールで配信し、電子カルテのポータルサイトにもアップしました。当院多職種講師による勉強会は2023年12月15日に「経腸栄養と下痢」をテーマとし、会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で開催しました。日本臨床栄養代謝学会・日本病態栄養学会のNST稼働施設として認定されております。

緩和ケアチーム

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー等のメンバーで活動しています。週1回のカンファレンスとラウンドに参加し、月1回の定例会に出席しています。

褥瘡対策チームカンファレンス

医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、事務職員等で活動しています。週1回のカンファレンスに参加し、月1回の委員会に出席しています。

摂食嚥下支援チーム

医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士で活動しています。隔週1回のカンファレンスに参加しています。

不定期に嚥下食等の試食検討会を行い、嚥下調整食等の見直しを行っています。

心臓リハビリカンファレンス

医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー等で活動しています。週1回のカンファレンスに参加しています。

移植チームカンファレンス

医師（精神科、肝胆膵外科、腎泌尿器科等）、移植コーディネーター看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務職員等で活動しています。月1回程度のカンファレンスに参加しています。

5. 実習生・研修生の教育

実習生の受け入れ

感染対策に留意し、管理栄養士養成校（金城学院大学、鈴鹿医療科学大学）より実習生を受け入れました。献立作成や院内キッチンスタジオでの調理実習、厨房での調理作業を通して、大量調理や給食管理について学び、栄養指導やカンファレンスの見学では、実際に患者さんと接することで栄養管理業務を体験できるようにしています。さらに、看護部、薬剤部、検査部、リハビリテーション部、医事課等、他部門の見学や講義を通して、多職種連携の必要性や、病院の業務についての理解を深めることができるカリキュラムを組んでいます。

また、他部門の実習生・研修生に対しては、見学や講義を通して病院の管理栄養士業務について紹介しています。

■ 活動実績

1. 患者給食数

一般治療食

242,182食(非加算)

特別治療食

210,311食(加算119,503食、非加算90,808食)

食堂加算

163,437食

選択メニュー提供料金算定件数

42,761食

2. 栄養指導件数

個人栄養指導 一般治療食

54件(非加算 入院30件、外来24件)

個人栄養指導 特別治療食

入院 1,108件(加算511件、非加算121件、

病棟専従による非加算 476 件)

外来 2,362 件(加算 1,787 件、非加算 491 件、
化学療法 加算 56 件、化学療法 非加算 28 件)

集団栄養指導

入院 6 件 (加算 3 件、非加算 3 件)

外来 34 件 (加算 33 件、非加算 1 件)

3. その他加算

糖尿病透析予防

17 件

栄養サポートチーム加算

363 件

緩和ケア診療加算

45 件

栄養情報提供加算

2 件

早期栄養介入管理加算

612 件

早期栄養介入管理加算 (入室早期から経腸栄養開始)

126 件

入院栄養管理体制加算

10,022 件

入院栄養管理体制加算における栄養情報提供加算

12 件

4. 臨床研究等の実績

学会

森貴宣. 継続的にインスリンまたは SGLT2 阻害薬を使用している 2 型糖尿病患者の 1 年間の体重、骨格筋量及び体脂肪量の変化の検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 (2023. 5. 13 かごしま県民交流センター)

和田啓子. 「糖尿病ケアチーム」の発足と 3 年ぶりの糖尿病教室開催についての取り組み. 第 10 回日本糖尿病療養指導士学術集会 (2023. 7. 22 京都国際会館)

和田啓子. 褥瘡対策チームにおける管理栄養士の役割と栄養管理の実際. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会 (2023. 9. 2 神戸国際展示場)

中馬優似. 粘度可変型栄養剤を使用し嘔吐が改善した食道裂孔ヘルニアの一例. 第 34 回三重 NST 研究会学術集会 (2023. 11. 11 伊勢赤十字病院)

小出知史. 外来化学療法室での栄養指導実施についての取り組み. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会

(2024. 1. 26 京都国際会館)

成田真奈. 多職種連携により作成した当院の新しい食形態分類表「Miedai Pyramid」. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 26 京都国際会館)

朝倉秋絵. とろみの標準化を目指した摂食嚥下支援チームの取り組み. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 26 京都国際会館)

竹越七海. 化学放射線療法による味覚障害を伴う摂取不良に対し、香りや口当たりを考慮した食事調整が有効であった一例. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 26 京都国際会館)

和田啓子. 国立大学病院における入院時食事療養費にかかわる運営費用の実態 NO. 4—給食材料費の関わる分析—. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 27 京都国際会館)

森貴宣. 救命救急センターでの早期栄養介入管理加算における栄養士の取り組みと課題. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 28 京都国際会館)

石田優衣. 当院の入院栄養管理体制についての取り組み. 第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 28 京都国際会館)

森貴宣. 救命救急センターにおける早期栄養介入管理加算について～栄養士の取り組みと課題～. 第 39 回日本臨床栄養代謝学会年次学術集会 (2024. 2. 16 パシフィコ横浜)

成田真奈. 多職種連携による「嚥下調整食」見直しと当院の「咀嚼く通過障害食」作成の取り組み. 第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 (2024. 3. 2 四日市市文化会館)

朝倉秋絵. 当院における摂食嚥下支援チームの活動—とろみの標準化にむけての検討—. 第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 (2024. 3. 2 四日市市文化会館)

講演

和田啓子. 専門管理栄養士の活動実態 専門管理栄養士の糖尿病患者への取り組み 2. 第 19 回西東京病態栄養研究会 (2023. 7. 10 web)

小出知史. がん患者の栄養. 令和5年度三重県がんにおける質の高い看護師育成研修 (2023. 7. 20~8. 9 三重大学医学部附属病院)

和田啓子. 「新型コロナウイルス感染症の流行期における給食施設の対応について」～医療現場の事例～. 令和5年度給食施設管理者研修会 (2023. 8. 24 web)

小出知史. 明日から使えるカーボカウントのすすめかた. 第51回糖尿病療養指導士育成のための講習会 (2023. 9. 2 三重県総合文化センター)

小出知史. 栄養管理に関する診療報酬について. 三重県臨床研究会 (2023. 9. 9 三重大学地域イノベーションホール)

森貴宣. 肝疾患の栄養療法について. 日本病態栄養学会肝疾患専門管理栄養士教育セミナー (2023. 9. 9 中央電気倶楽部)

小出知史. 糖尿病重症化予防における食事療法. 令和5年度糖尿病重症化予防人材育成研修会 (2023. 9. 30 三重県庁)

森貴宣. 高齢期の栄養について～しっかり食べて元気に長生き～. 医療講演会 (2023. 10. 2 ふれあいセンター なんと)

朝倉秋絵. しっかり食べて低栄養予防. 日本オストミー協会三重県支部患者会 (2023. 11. 18 アスト津)

森貴宣. 肝疾患の栄養療法について. 肝がん撲滅運動市民公開講座 (2023. 11. 19 三重大学医学部附属病院)

和田啓子. 超高齢化社会と栄養の課題. 令和5年度三重県栄養改善大会みえの食フォーラム (2023. 12. 2 三重県勤労福祉会館)

和田啓子. 高血圧と食事について～美味しく続けられる減塩の工夫～. 名張市民公開講座 (2023. 12. 9 名張市武道交流館いきいき多目的ホール)

石田優衣. 下痢に対する経腸栄養の管理について. 第7回三重大学栄養サポートチーム (Mie-U.NST) 勉強会 (2023. 12. 15 三重大学医学部附属病院三医会ホール)

服部雅子. クリスマス料理を楽しむ. お父さんの料理教室 (2023. 12. 23 伊勢中川コミュニティセンター)

服部雅子、服部純怜、田辺紗弥香. ちょい手間クッキング!. えそらカフェ (2023. 1. 12 三重大学医学部附属病院)

森貴宣. 肝性脳症を伴う肝硬変患者でのたんぱく質制限の必要性. 第27回日本病態栄養学会年次学術集会 (2024. 1. 28 京都国際会館)

廣島佑希子. 肝疾患に対する栄養療法. 日本病態栄養学会スキルアップセミナーin三重 (2024. 2. 10 三重大学地域イノベーションホール)

表彰

小出知史. 日本栄養士会会長表彰 (25年等業務貢献者)

資格等 (取得者数)

病態栄養専門管理栄養士 (6名)
糖尿病病態栄養専門管理栄養士 (1名)
がん病態栄養専門管理栄養士 (1名)
NST 専門療法士 (2名)
日本糖尿病療養指導士 (2名)
心不全療養指導士 (1名)
健康運動指導士 (1名)
三重県肝炎医療コーディネーター (2名)
日本栄養士会災害支援チーム リーダー (5名)
日本栄養士会災害支援チーム スタッフ (5名)
調理師免許 (1名)
料理教師三級 (1名)